

【様式- 】個別施設計画(ため池)

				調査年月日	2020年 12月 22日							
				計画期間	2022年～2025年							
施設概要	施設名称	造成時期		受益面積	改修歴			施設管理者				
	池の平溜池 (防災重点ため池)	着工	完成	ha				堅沢水利組合 (北宮地区長)				
			1955	41								
	構造等 規格・規模	ため池 諸元	総貯水量:34,500m ³ 直接集水面積:0.6096km ² 満水面積:0.0081km ²			堤体 諸元	形式:均一型 堤頂幅(B):2.5m 堤高(H):6.8m 堤頂長(L):100.0m 斜面勾配:2.8(上)／2.5(下)					
			附帯施設									
	洪水吐 諸元	形式:側水路型	斜樋 諸元	形式:斜樋 管径:HPφ800mm	底樋 諸元	管径:HPφ800mm						
施設の現況及び 管理の状況	<p>【施設の現況】(現地調査) 本ため池は、昭和30年(1955)に完成し現在まで改修は行っておらず、完成後から65年が経過している。 本調査の結果、堤体上流法面の表面保護工にズレや目地材の損傷等も見受けられ、樹木も堤体の下流法面・地山境界部・構造物境界部に生えている。洪水吐等の施設にひび割れや欠損・損傷等も確認した。</p> <p>【管理の状況】 管理状況については、定期的に堤体の草刈りや巡回が行われている。</p>											
保全対策の方針	基本方針	平成25年度の一斉点検及び令和2年度の安定計算の結果、常時の常時満水位(背後地側)と地震時の常時満水位(貯水池側・背後池側)の安全率が1.2以下であり耐震基準を満たしていない。本調査結果からも堤体上流部の法面保護工に変状が認められ、堤体に樹木も生えている。本ため池は「防災重点ため池」に該当することから、早急に対策を講じる必要がある。										
	管理水準	堤体	堤体は構造的(安全率1.2以下)に不安定であり、完成後65年が経過し耐用年数(80年)までは15年あるが、樹木が生えているなど堤体の安定に悪影響を及ぼす要因もあることから、総合的な対策の検討が必要である。									
機能保全対策	対策工法・時期	附帯施設	附帯施設についても変状がみられるため、堤体の対策を講じる際に附帯施設についても同じく対策を講じる。									
		<p>【対策工法】 堤体の耐震基準を満たしていない事や堤体に樹木が生えており、堤体上流部の法面保護工のズレや目地材等の破損も見受けられるため、詳細な調査及び工法の検討が必要である。また、ため池の付帯施設は堤体に隣接しており、欠損・損傷も見受けられることから、改修の際に併せて付帯施設も改修する必要があるため、対策工法としては全更新(堤体+付帯施設)とする。</p> <p>【時期】 対策時期については、市内にあるその他ため池の調査結果から対策の優先順位を検討した上で適切な時期に対策を講じる。</p>										
	対策費用	【更新対策】 200,000千円(堤体一式)										
備考	改修工事をR4～R7年度にて実施予定											

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(長寿命化)(百万円)										
対策費用(更新)(百万円)		50	50	50	50					
対策の内容・時期	経過観察 日常点検	更新	更新	更新	更新	経過観察 日常点検	経過観察 日常点検	経過観察 日常点検	経過観察 日常点検	経過観察 日常点検